

議題（１） 障害福祉サービス等の提供実績について

障害福祉サービス、障害児通所支援事業及び地域生活支援事業については、第３期障害者計画・第７期障害福祉計画・第３期障害児福祉計画で現状と課題を確認し、必要な見込量やそのための具体的方策を策定した。令和５年度の見込量及び実績は以下のとおり。見込量及び実績の分析をもとに、今後の課題及び方針について記載した。

１ 障害福祉サービス

（１）訪問系サービス

（単位：１月あたりの延べ利用者数、１月あたりの延べ時間）

サービス名	区分	令和４年度		令和５年度		令和６年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
居宅介護	人	93	107	94	95	100
	時間	2,503	2,437	2,530	2,693	2,480
重度訪問介護	人	1	0	1	0	1
	時間	425	0	425	0	425
同行援護	人	9	6	10	5	5
	時間	63	38	70	38	32
行動援護	人	1	1	1	1	1
	時間	7	8	7	5	7
重度障害者等 包括支援	人	1	0	1	0	1
	時間	425	0	425	0	425

ア 分析

居宅介護の利用者数及び延べ時間は実績が見込量を上回った。その他は、実績と見込量が同数、若しくは下回った。

イ 課題

同行援護や行動援護などを行う従事者の専門的な技術の習得が課題である。また、サービス提供中に従事者間での情報共有が可能な通所系サービスと異なり、サービス提供上の課題の把握や事業所ごとの課題解決に向けての従業員教育の機会が乏しいため、研修の実施が困難な状況である。

ウ 方針

障害特性により、対応に知識や経験が必要となる人への支援や、特に行動援護に要する専門的な技術などに関する研修の検討、実施及び事業所間での情報共有などの技術支援が可能となる体制の整備を図る。また、障害福祉分野の多様な人材の確保及び就業者数の増加を図るために、仕事の魅力が伝わるような情報発信の方法や内容を検討する。

(2) 日中活動系サービス

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
生活介護	人	196	181	201	172	185
	日	3,861	3,297	3,960	3,288	3,668
自立訓練 (機能訓練)	人	1	0	1	1	1
	日	23	0	23	13	23
自立訓練 (生活訓練) ※	人	3	5	4	2	3
	日	117	93	157	7	65
就労移行支援	人	23	21	28	25	25
	日	449	365	546	432	442
就労継続支援 (A型)	人	57	53	62	54	59
	日	1,132	1,036	1,231	1,086	1,179
就労継続支援 (B型)	人	144	143	158	165	174
	日	2,278	2,445	2,499	2,834	3,060
就労定着支援	人	12	13	15	8	16
療養介護	人	13	12	14	14	14
短期入所 (福祉型)	人	84	41	92	34	45
	日	257	151	282	117	151
短期入所 (医療型)	人	1	1	1	2	4
	日	7	7	7	9	32

※ 居住系サービスの宿泊型自立訓練を日中活動系サービスの自立訓練（生活訓練）の中に含めて計上

ア 分析

就労継続支援（B型）及び短期入所（医療型）の利用者数及び利用日数は実績が見込量を上回った。その他は、実績と見込量が同数、若しくは下回った。

イ 課題

生活介護や短期入所の事業所については、近隣市を含めても十分な事業所数や空き定員がなく、新規の利用開始や緊急時の利用が困難な状況となっている。また、自立訓練等の提供する事業所が近隣市にほとんどないサービスについては、十分なサービス利用ができていない可能性がある。その他、医療的ケアを要する障害者等に対する生活介護及び短期入所を提供できる体制が整っていないことが課題となっている。

ウ 方針

特別支援学校等の卒業予定者数や卒業後の進路希望を把握するとともに、障害福祉サービス事業所説明会を実施するなど、地域で情報を共有し、卒業後の利用サービスの確保を支援する。

自立訓練は、サービス利用のニーズに応じて必要な支援体制を検討する。また、就労移行支援及び就労定着支援については、障害者の法定雇用率の上昇も踏まえ、

雇用者や雇用支援者を対象とした、障害理解に関する講演、研修等を行い、障害者の就労機会の創出や継続雇用の促進を図る。

医療的ケアを要する人や重症心身障害児者が安心して地域で生活できるよう、事業所での医療行為などの専門性の確保を推進し、地域における受け入れ体制の確保を目指す。

(3) 居住系サービス

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
自立生活援助	人	1	0	1	0	1
共同生活援助	人	56	58	61	63	64
施設入所支援	人	32	35	31	34	34

ア 分析

自立生活援助の延べ利用者数は実績が見込量を下回った。一方、共同生活援助及び施設入所支援は、実績が見込量を上回った。

イ 課題

保護者など介護者の高齢化により“親なき後”の支援として、単独生活が困難と思われる障害者に対するグループホーム等の居住環境のニーズが高まっている。一方で、従業員の不足や、強度行動障害者や医療的ケア等を必要とする重度障害者の受け入れ可能な事業所が不足しているなど、提供体制の充実が課題である。

ウ 方針

圏域内の関係機関と連携し、地域生活支援拠点等の機能の充実や自立生活援助、地域移行支援の推進を図るとともに、居住系サービスの提供体制の整備を図る。

共同生活援助の受け入れ体制の確保にあたっては、国庫補助を活用し、強度行動障害者や医療的ケア等を必要とする重度障害者の受け入れ可能なグループホームの設置を促進する。また、障害者等のニーズや事業所が求める支援を把握し、情報共有を進めるとともに、市と事業所間で連携し、市内で利用できる定員の拡充に向けた支援を推進する。

(4) 計画相談支援・地域相談支援

(単位：1月あたりの延べ利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
計画相談支援	人	80	70	91	74	80
地域移行支援	人	3	0	4	1	2
地域定着支援	人	1	0	2	0	1

ア 分析

すべて実績が見込量を下回った。

イ 課題

障害福祉サービスの利用者増加に伴い、計画相談支援の利用者が増加しているが、相談支援専門員の人数が確保できていない。加えて、地域での包括的な支援が必要とされ、各機関において提供されるサービスの調整も相談支援事業所に求められており、相談支援専門員の質及び人数を確保し、需要に応える相談支援の提供体制の整備が求められている。

地域移行支援及び地域定着支援については、対象となり得る長期入院者の定期的な状況の把握が病院外の関係機関においては困難であることや、医療機関においては、地域における福祉施策の体制状況の把握が困難であることなどから、サービスの提供実績がないのが課題となっている。

ウ 方針

地域における包括的な支援を行うために関係機関の連携及び支援を強化することで、相談支援専門員の負担軽減を図る。

長期入院者の地域移行に関しては、医療機関と相談支援事業所との連携を図り、地域移行支援及び地域定着支援の対象者の把握や、地域移行後に継続的な相談支援の実施、医療機関との情報共有を行う等により、地域での定着支援を行う。

2 障害児通所支援事業

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
児童発達支援	人	147	82	197	80	86
	日	882	393	1,182	505	430
放課後等 デイサービス	人	181	278	190	234	307
	日	1,591	1,606	1,670	1,872	1,774
保育所等訪問支援	人	97	116	107	118	120
	日	97	117	107	118	120
居宅訪問型	人	5	1	6	1	1

児童発達支援	日	25	7	30	3	7
障害児相談支援	人	49	35	60	44	45
医療的ケア児に対する 関連分野支援を調整する コーディネーターの配置	人	2	2	2	2	2
子ども・子育て 支援事業	人	295	319	295	360	364

(1) 分析

放課後等デイサービス及び保育所等訪問支援の延べ利用者数及び延べ利用日数は実績が見込量を上回った。子ども・子育て支援事業の延べ利用者数は実績が見込み量を上回った。その他は、実績と見込量が同数、若しくは下回った。

(2) 課題

各サービス提供事業所の増加に伴い、各事業所にて行われる支援内容が多様化し、保護者の各サービスに求めるニーズも多様化してきている。そのため、各サービスの調整を図る相談支援専門員の需要が高まっており、計画相談支援と同様に支援体制の整備が課題となっている。放課後等デイサービスについては、児童の育成について保護者が事業所に頼りきりとなってしまうケースもある。

また、医療的ケアを必要とする障害児に対するサービスは乏しく、医療的ケア児の受け入れが可能な児童発達支援及び放課後等デイサービス事業所が市内にないことや、圏域においても限られていることが課題となっている。

(3) 方針

各事業所が提供するサービス内容を把握し、事業内容の適正さを確認するとともに各障害児の支援に適したサービス利用に適切かつ、円滑につなげられるよう各事業所や障害児相談支援事業所と情報連携に努める。

保護者が子どもの特徴を早期に理解し、適切な関わり方を学ぶことで、放課後等デイサービスなどの事業所に頼りきりになることなく、将来の健全な生活につなげるため、保護者向けの講習会や発達相談、ペアレントトレーニングなど、家族等に対する支援の充実を図る。また、にじの学園を含め、支援体制の充実に努める。

医療的ケア児については、地域での生活における支援環境を整備するため、市内の実態把握を踏まえた整備方針等の協議を進め、コーディネーターを配置し個別の対応を含めた支援の充実を図る。

重症心身障害児や医療的ケア児が利用できる児童発達支援や放課後等デイサービスについて、医療的ケア児者検討会等でニーズを整理しながら必要な支援体制を検討する。

3 地域生活支援事業等

(1) 理解促進研修・啓発事業、自発的活動支援事業

(単位：実施か所数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
理解促進研修・啓発事業	か所	2	2	2	2	2
自発的活動支援事業	か所	2	2	2	2	2

(2) 相談支援事業

(単位：実施か所数、実施有無)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
障害者相談支援事業	か所	3	3	3	3	3
基幹相談支援センター等機能強化事業	か所	1	1	1	1	1
基幹相談支援センター	か所	1	1	1	1	1
地域自立支援協議会	か所	1	1	1	1	1
住宅入居等支援事業	実施有無	無	無	無	無	無

(3) 成年後見制度利用支援事業、成年後見制度法人後見支援事業

(単位：実施か所数、1月あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
成年後見制度利用支援事業	人	4	1	6	1	1
成年後見制度法人後見支援事業	か所	1	1	1	1	1

(4) コミュニケーション支援事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
手話通訳設置事業	人	12	7	13	7	7
手話通訳者派遣事業	人	11	12	15	17	22
要約筆記者派遣事業	人	1	0	1	0	1

(5) 日常生活用具給付等事業

(単位：1年あたりの件数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
介護・訓練支援用具	件	14	7	17	8	7
自立生活支援用具	件	13	9	14	12	9
在宅療養等支援用具	件	14	17	16	12	26
情報・意思疎通支援用具	件	10	5	10	6	5
排泄管理支援用具	件	1,194	1,133	1,254	1,121	1,222
居宅生活動作補助用具 (住宅改修費)	件	3	1	3	4	1

(6) 手話奉仕員養成研修事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
手話奉仕員養成研修事業	人	6	6	8	6	7

(7) 移動支援事業

(単位：1月あたりの利用者数、1月あたりの延べ時間)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
移動支援事業	人	104	115	105	79	125
	時間	867	930	875	1,007	1,116

(8) 地域活動支援センター

(単位：実施か所数、1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
地域活動支援センター	か所	1	1	1	1	1
	人	16	14	16	13	14

(9) 訪問入浴サービス事業

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
訪問入浴サービス事業	人	8	12	9	11	14
	日	56	33	63	50	67

(10) 生活訓練等事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
生活訓練等事業	人	6	4	6	6	6

(11) 日中一時支援事業

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
日中一時支援事業	人	181	116	191	133	158
	日	372	193	393	230	241

(12) 巡回支援専門員整備事業

(単位：1年あたりの実施回数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
巡回支援	回	100	33	100	26	35
支援者向け講習会	回	7	10	7	12	10
保護者向け講習会	回	8	11	8	15	12
発達相談	回	90	243	90	293	250

(13) レクリエーション等活動等支援事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
レクリエーション等活動等支援事業	人	126	81	128	84	85

(14) 芸術文化活動振興事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
芸術文化活動振興事業	人	73	49	73	56	70

(15) 声の広報発行事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
声の広報発行事業	人	7	7	7	7	7

(16) 奉仕員養成研修事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
奉仕員養成研修事業	人	8	9	8	9	9

(17) 複数市町村における意思疎通支援の共同実施促進事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
複数市町村における意思疎通支援の共同実施促進事業	人	7	3	7	4	7

(18) 補装具費給付事業

(単位：件数)

サービス名	区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
交付、借受及び修理	件	126	98	128	95	100

ア 分析

移動支援事業の延べ利用時間、訪問入浴サービス事業の利用者数などは、実績が見込量を上回った。一方、成年後見制度利用支援事業の利用者数、日中一時支援事業及び補装具費給付事業などは、実績が見込量を下回った。

イ 課題

成年後見制度利用支援事業は、高齢化に伴い必要性は高まっている一方で、利用実績は低くとどまっている。制度の周知は進んでいるものの申請手続きの煩雑さから申請を先延ばされるなど、利用に至っていないことも考えらる。日常生活用具の一部の品目、手話通訳者派遣事業などについては、利用を必要とする障害者等の特定が難しいものの、手帳の障害種別や年齢別の所持者数を踏まえると、利用実績は低調となっており、制度自体の周知不足から利用に至っていないことも想定される。

児童の育成に関しては、家庭や保育所など多く生活場面でサポートが必要であり、そのため、保護者のサポートや支援者の支援力の向上が必要である。

ウ 方針

継続的な実施となっている事業については、実情や利用者の状況に合わせて、関係機関や事業者と連携し、各事業の柔軟な提供体制の確保を図る。

成年後見制度利用支援事業の利用に至っていない障害者が適切に制度を利用できるように、市広報やインターネットを活用した広報活動や、碧南市成年後見支援センターなどの関係機関との連携、障害福祉サービス事業所や障害福祉関係団体への制度説明など、情報収集できる機会を増やす方策を検討する。

児童の育成に関しては、巡回支援等を実施し、支援者の専門的な技術を向上させるとともに支援者向け講習会を実施する等支援者全体の技術の底上げを目指していく。また、保護者向けの講習会や相談の充実も図っていく。

議題（２）基幹相談支援センターの実績報告

１ 総合的・専門的な相談支援の実施（令和５年４月分から令和６年３月分まで）

（１）一般相談支援件数

１８歳未満８０件、１８歳以上９３０件、合計１，０１０件

（２）総合的な相談支援や専門的な相談支援（困難ケース等）への対応

実人数８２人に対し、延べ２，５９７件の相談支援を行った。件数の具体的な内訳は次の通り（件数は全て延べ）。

ア 被虐待者への対応や継続的対応が必要な人への支援 ５９件

イ 家族力が低く多問題のある人への支援 １，１５５件

ウ 強度行動障害のある人への支援 １５５件

エ 医療依存度が高い人への支援 １１７件

オ 障害特性による課題が多い人への支援 １，１１１件

２ 地域の相談支援体制の強化の取組

（１）地域の相談支援事業者に対する専門的な助言、指導

計画相談支援を担当する事業所と支援方針の確認などのサポートを実施。

（２）地域の相談支援事業者の人材育成の支援

ア 相談支援従事者現任研修及び初任者研修受講者に対し、研修におけるインターバル期間の実習を受け入れ、個別事例への助言、地域課題の確認や社会資源の共有及び情報確認などについてコンサルテーションを実施。

イ 相談支援事業所情報交換会を開催し、高次脳機能障害について特定非営利活動法人 高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」の方を講師に招き、勉強会を実施。相談支援専門員のほか、地域包括支援センターの担当者やケアマネジャーにも参加していただき、障害と高齢の各サービスの連携を推進していく方針とした。

（３）地域の相談機関との連携強化の取組

ア 市内小中学校へ児童通所支援事業を利用する児童・生徒の一覧を配布し、教育機関との連携の充実を図った。

イ 個別事例に基づき、地域包括支援センター、生活困窮者自立相談支援事業、成年後見支援センター、ハローワーク等の機関と連携及び協働による対応を実施。

ウ ICF 情報把握・共有システムを使った個別支援会議を実施し、家庭、教育、福祉

の各支援機関が共通のツールを活用した情報共有を行い、支援方法について検討した。

3 地域移行・地域定着の促進の取組

(1) 障害者支援施設や精神科病院等への地域移行に向けた普及啓発

個別ケースに応じ、医療機関と連携しながら対応。

(2) 地域生活を支えるための体制整備に係るコーディネート

地域生活支援部会にて日本福祉大学 青木聖久教授に「地域生活支援の魅力と可能性～36年間の追体験を通して～」の講演をしていただき、地域生活支援の体制整備について再検討。また、精神科病院の長期入院者や医療保護入院等からの退院に関するコーディネートを実施。

4 権利擁護・虐待の防止

(1) 障害者虐待における通報又は届出の受理

碧南市障害者虐待防止センターの一部機能（相談届出受理、相談、助言及び指導、受け入れにおける支援、広報、周知等）を受託し、夜間及び休日における虐待防止センターの電話受付体制などの虐待防止に努めた。

(2) 障害者及び養護者に対する相談、指導及び助言

虐待対応に関して、毎月福祉課と情報共有及び進捗状況の確認を行い、支援方針の確認や虐待対応の終結に向けた調整を実施。

(3) 障害者虐待防止のための関係機関とのネットワーク構築、広報及び啓発活動

市内の障害福祉サービス事業所及び児童通所支援事業所等を対象に、権利擁護・虐待防止に関するセミナーを開催し、各事業所における虐待防止のための研修に役立つように企画。また、施設・地域における障害者虐待防止の職員セルフチェックリストを受講前に実施してもらい、支援者の虐待防止の啓発に努めた。

5 碧南市地域自立支援協議会作業部会の運営

事業所部会、就労支援部会、こども部会、障害者災害時支援部会及び地域生活支援部会の事務局として地域課題の整理及び各部会へ検討事項を提案。各部会の詳細は、別紙のとおり。

議題（３）碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告及び今年度の取組について

1 事業所部会

(1) 構成メンバー

障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター及び相談支援事業所

(2) 令和５年度目標及び結果

ア 目標

地域生活支援拠点の機能評価と実情に即した体制を整備。

イ 結果

(ア) ６月１２日（月）、９月２５日（月）、１１月２０日（月）に部会を開催し、地域生活支援拠点における「体験の機会・場」の情報が利用者に届いていないという課題に対応するため、宿泊体験の情報を周知できるようリーフレットを作成した。今後、各事業所のモニタリングなどの定期的な機会を活用し、継続的な周知ができるようにしていく方針とした。

(イ) 地域生活支援拠点における専門的人材の確保・養成のため、次の取組みを実施。

a ７月１１日（火）に「自分の取説、支援に活かそう！」と題して、経験年数の少ない職員を対象に自己覚知のための研修を実施。

b １０月１６日（月）に「親切的な虐待していませんか？」と題して、権利擁護・虐待防止セミナーを開催。各事業所における虐待防止のための研修として活用できるように実施。

c １２月１９日（火）「碧南の社会資源を知るといいぞう」と題して、自立支援協議会の機能や役割、市内の他事業所について知り、また他事業所の職員とのネットワークづくりの機会として実施。

(ウ) 就労支援部会と協力し、７月８日（土）に障害福祉サービス事業所説明会を開催。将来の進路選択の参考となるよう努めた。

(エ) 地域生活支援拠点の機能評価を市内の障害児者福祉サービス事業所より実施。

(3) 令和６年度検討事項

ア 課題

地域生活支援拠点の機能評価結果において、更なる機能の充実が必要な項目がある。

イ 目標

地域生活支援拠点の機能評価の継続及び機能の充実のための検討を実施。

ウ 取組内容

- (ア) 令和5年度の地域生活支援拠点の機能評価結果を基に機能の充実のための検討を継続。
- (イ) 人材育成のため地域のニーズに応じた研修を実施。
- (ウ) 将来の進路や生活の参考となるよう、事業所等の情報を伝えられる機会の提供。
- (エ) 地域生活支援拠点の機能評価を継続的に実施。

2 就労支援部会

(1) 構成メンバー

障害当事者団体代表、ハローワーク、地域活動支援センター、特別支援学校、保護者、商工会議所、障害者就業・生活支援センター、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所及び市（学校教育課及び商工課）

(2) 令和5年度目標及び結果

ア 目標

- (ア) 地元企業を中心に障害者雇用の理解促進。
- (イ) 就労系事業所の専門性の向上や工賃向上などに活かせる取組の検討。
- (ウ) 進路選択の参考となる機会を設ける。
- (エ) 支援を必要とする就労希望者へ情報を届ける。

イ 結果

- (ア) 将来の進路や生活の参考となるよう、事業所部会と協力し、障害福祉サービス事業所説明会を7月8日（土）に開催。
- (イ) 11月17日（金）に就労支援部会開催。ハローワークより障害者就労に関して情報共有。「企業とつながる」をテーマに検討。
- (ウ) 3月25日（月）に就労支援部会 コアメンバー会議を開催。トヨタ自動車 ミハナ事業の説明を受け、企業での業務の切り出しや、治具製作の工程などを学んだ。

(3) 令和6年度検討事項

ア 課題

- (ア) 地元企業を中心に障害者雇用の理解促進が必要。
- (イ) 就労系事業所の専門性の向上や工賃向上などが必要。
- (ウ) 学生から社会人になり、進路のミスマッチのような状態が生じることもある。
- (エ) 支援を必要とする就労希望者と支援者とのマッチングを図る機会が限定的。

イ 目標

- (ア) 地元企業を中心に障害者雇用の理解促進。
- (イ) 就労系事業所の専門性の向上や工賃向上などに活かせる取組の検討。
- (ウ) 進路選択の参考となる機会を設ける。
- (エ) 支援を必要とする就労希望者へ情報を届ける。

ウ 取組内容

- (ア) 障害者雇用の理解促進を目的として、企業向けの企画開催について検討。
- (イ) 事業所間の連携を図りながら、工賃向上に向けて情報共有や検討。
- (ウ) 就職希望者への情報周知や作業体験の場などについて検討。

3 こども部会

(1) 構成メンバー

保護者、ほっとまんまピアサポーター、特別支援学校、児童通所サービス事業所、子育て支援センター、訪問看護ステーション、保健所、相談支援事業所及び市（こども課、学校教育課及び健康課）

(2) 令和5年度目標及び結果

ア 目標

- (ア) ライフステージをつなぐ一貫した支援、連携の充実
- (イ) 医療的ケア児者等課題別の検討会を実施
- (ウ) 保護者支援として、ほっとまんまによるピアサポートの実施や茶話会を開催
- (エ) サポートブック普及啓発活動の継続

イ 結果

- (ア) 情報共有のため、5月29日（月）にこども部会に関係する支援機関等の全員を含めた会議を開催し、関係者の顔合わせと前年度の検討内容の報告、当年度の予定などを確認した。
- (イ) 10月18日（水）に児童通所支援事業所検討会を開催。新たに参加された事

業所の支援内容や特色等を共有。事業所より提出された、本人支援で困難なケースについて事例検討を行い、支援方法等を共有。

- (ウ) 2月5日(月)に医療的ケア児者検討会を開催し、就学時の課題について検討。市内の小中学校に通う医療的ケア児は、保護者のサポートや養護教諭の見守り等で自己にて医療的ケアを行える児童が通学しているが、医療的ケアを行える支援者が配置されていないため、特に低年齢の児童は保護者のサポートが必要となり、保護者の就労の妨げになっていることを確認。

また、学校では養護教諭やスクールアシスタントの協力が必要だが、医療の専門職ではないため不安や負担が大きいと、専門職である看護師配置が必要であることを確認。

(エ) 保護者支援

「ほっとまんま・カフェ」と「ほっとまんま相談コーナー（あおぞらひろば）」を月1回開催（ほっとまんまカフェは8月除く、ほっとまんま相談コーナーは5月、8月、1月を除く）。6月と11月にはより多くの人が参加できるよう、土曜日に開催した。

ほっとまんま茶話会を2月13日(火)に開催。「褒め方のコツ」について勉強会を行い、育児の悩みなどをグループで意見交換を行った。

ピアサポーターによる出張相談を9月12日(火)、14日(木)ににじの学園で実施。

(オ) サポートブックの普及・啓発

サポートシートについて、4月の小中学校の特別支援教育コーディネーター担当者会および市園長会、公私立主任会で活用について周知。

にじの学園にてサポートブック説明会を1月19日(金)に開催。

(3) 令和6年度検討事項

ア 課題

- (ア) 医療的ケア児者の他、課題別に継続した検討が必要
- (イ) 保護者や各支援機関との連携、情報共有の充実
- (ウ) サポートブック普及のため継続的な啓発活動が必要

イ 目標

- (ア) ライフステージをつなぐ一貫した支援、連携の充実

- (イ) 医療的ケア児者等課題別の検討会を実施
- (ウ) 保護者支援として、ほっとまんまによるピアサポートの実施や茶話会を開催
- (エ) サポートブック普及啓発活動の継続

ウ 取組内容

- (ア) 6月24日（月）に医療的ケア児者検討会を開催。昨年度から引き続き医療的ケア児の就学時の課題について検討。就学時の支援体制について近隣市の情報を共有。地域の小中学校への看護師配置等や連携の在り方について検討。
- (イ) 保護者支援の更なる充実のため、ほっとまんまによるピアサポートの実施やサポートブック・サポートシートの普及啓発を実施。
- (ウ) にじの学園と連携し、就園・就学前児童の保護者にぷちサポートブック、サポートシート説明会を開催。小中学校の特別支援コーディネーター担当者会や公私立主任会でサポートシート等を周知。また、サポートブックをより広く活用できるよう、様式の見直しを検討。

4 障害者災害時支援部会

(1) 構成メンバー

民生委員、障害当事者団体、特別支援学校、福祉避難所指定障害福祉サービス事業所及び市（高齢介護課及び防災課）

(2) 令和5年度目標及び結果

ア 目標

- (ア) 防災に関して、当事者・家族が関われる機会が設けられるよう検討。
- (イ) 要配慮者について、地域住民への理解促進等について検討。

イ 結果

- (ア) 7月10日（月）に第1回部会を開催。防災に関する当事者・家族が関われる機会について、碧南市総合防災訓練・棚尾自主防災会・みどり会勉強会の情報を共有。当事者・家族自身が発災時やその後の避難生活を自分事として考える機会について意見交換。被災時の障害者支援を検討している地域の方たちと協議する場をつくるとよい等の意見があり、コアメンバー会議で検討する方針とした。
- (イ) 9月4日（月）にコアメンバー会議を開催。第1回の部会を振り返り、今後予定されている訓練等への参加について検討。医療的ケア児の避難訓練について、

他市の取り組みを共有し、碧南市の福祉避難所の現状を確認。地域住民へ要配慮者の理解促進につながる情報を発信する必要性を確認。

- (ウ) 12月19日（火）に第2回部会を開催。情報共有のため、みどり会勉強会の報告、防災課より福祉避難所について説明していただき、碧南市総合防災訓練や棚尾自主防災訓練の様子を共有。また、部会で「今から取り組んでいけるといいこと」をテーマにグループワークを実施。

(3) 令和6年度検討事項

ア 課題

- (ア) 当事者・家族自身が、発災時やその後の避難生活を自分事として考えることが必要。
- (イ) 要配慮者について、地域住民への理解促進が必要。

イ 目標

- (ア) 防災に関して、当事者・家族が関われる機会が設けられるよう検討。
- (イ) 要配慮者について、地域住民への理解促進等について検討。

ウ 取組内容

- (ア) 市や地域の避難訓練などへの参加や、防災に関する勉強会などを検討。当事者・家族が自分事として考えられる機会の検討。
- (イ) 地域住民に要配慮者への理解を促進するための検討を実施。
- (ウ) 個別避難計画等についての情報共有。

5 地域生活支援部会

(1) 構成メンバー

地域活動支援センター、精神科病院、障害者就業・生活支援センター、保健所、障害福祉サービス事業所及び相談支援事業所

(2) 令和5年度目標及び結果

ア 目標

- (ア) 障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するため、地域生活支援部会にて検討。
- (イ) 個別ケースに応じた精神障害者の地域移行支援、地域定着支援の実施。
- (ウ) あおみJセンターと連携し、家族懇談会をへきなん福祉センターあいくるにて

開催。

(エ) ころころの運営を継続。

イ 結果

(ア) 11月8日(水)に地域生活支援部会を開催。日本福祉大学 青木聖久教授より「地域生活支援の魅力と可能性～36年間の追体験を通して～」と題して講演をしていただき、グループにて意見交換。

(イ) 個別ケースを通じて、医療機関との連携を図り、精神科病院の長期入院者などの退院調整や退院後の安定した生活に向けた支援を実施。

(ウ) あおみJセンターと連携し、家族懇談会を奇数月の第3木曜日にへきなん福祉センターあいくるにて開催。

(エ) ころころの運営

a 精神に障害のある方等の居場所ころころを毎週木曜日10～15時に開所。

b 偶数月最終木曜日に運営委員会を開催し、プログラムを検討。

c 福祉課窓口で自立支援医療の更新手続きの際に、案内チラシを配布。ホームページに掲載、近隣精神科病院・クリニックにチラシ・ポスターを送付。

(3) 令和6年度検討事項

ア 課題

(ア) 地域移行支援、地域定着支援体制の充実が必要。

(イ) 親亡き後の生活や地域移行支援の受け皿となる社会資源が不足。

(ウ) 個別ケースに応じた精神障害者の地域移行支援、地域定着支援の実施。

イ 目標

(ア) 障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するため、地域生活支援部会にて検討。

(イ) 個別ケースに応じた精神障害者の地域移行支援、地域定着支援の実施。

(ウ) あおみJセンターと連携し、家族懇談会をへきなん福祉センターあいくるにて開催。

(エ) ころころの運営を継続。

ウ 取組内容

(ア) 障害のある人の暮らしを支える地域支援体制の構築に向けた検討。

(イ) 行政機関や医療機関と連携を図り、精神障害者の地域移行支援、地域定着支援

を推進。

(ウ) あおみ J センターと連携した家族懇談会の充実。

(エ) こころを運営し、居場所やプログラム内容について参加者を含め協議。

令和6年度 碧南市地域自立支援協議会 年間スケジュール

令和6年6月7日 現在

本会議

	令和6年度目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本会議	碧南市における障害者の地域生活支援の体制整備に向けた検討の実施			第1回 6月25日(火) 10:00～				第2回 10月25日(金) 10:00～					第3回 3月7日(金) 10:00～

作業部会

部会名	令和6年度目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業所部会	地域生活支援拠点の評価及び機能の更なる充実に向けた検討 ニーズに応じた研修の調整 事業所説明会の実施		第1回 5月20日(月) 10:15～	事業所説明会 6月29日(土) 10:00～			第2回 9月26日(木) 10:15～		第3回 11月21日(木) 10:15～				
就労支援部会	障害者雇用の理解促進 工賃向上や支援者の専門性向上 事業所説明会の実施 就労希望者へ情報を届ける			事業所説明会 6月29日(土) 10:00～	第1回	コア会議		コア会議		コア会議	第2回		
こども部会	ライフステージをつなぐ一貫した支援、連携の充実 医療的ケア児等課題別の検討会の実施			6/24(金) 医療的ケア児者検討会			児童通所支援事業所検討会						
ほっとまんまプロジェクト	障害等のあるこどもの保護者支援のため、ピアサポートや茶話会を開催	ほっとまんまカフェ 4/5(金) あおぞら広場 4/12(金)	ほっとまんまカフェ 5/2(木) あおぞら広場 5/17(金)	ほっとまんまカフェ 6/8(土) あおぞら広場 6/21(金)	ほっとまんまカフェ 7/5(金) あおぞら広場 7/19(金)		ほっとまんまカフェ 9/5(木) あおぞら広場 9/20(金) にじの学園出張相談	ほっとまんまカフェ 10/4(金) あおぞら広場 10/18(金)	ほっとまんまカフェ 11/9(土) あおぞら広場 11/15(金)	ほっとまんまカフェ 12/10(火) あおぞら広場 12/13(金)	障害などを持つおこさんの家族のための茶話会	ほっとまんまカフェ 2/5(水) あおぞら広場 2/21(金)	ほっとまんまカフェ 3/5(水) あおぞら広場 3/7(金)
サポートブック	サポートブック、ぶちサポートブック、サポートシートの普及啓発活動や検討	特別支援コーディネーター担当者会、市園長会、公私立主任会でサポートシート説明			サポートブック 意見交換会予定			在園児対象説明会予定			にじの学園サポートブック説明会		
障害者災害時支援部会	防災に関して当事者・家族が関わる機会の検討 要配慮者の地域住民への理解促進			6月10日(月) 10:00～				第2回				第3回	
地域生活支援部会	精神障害者を中心とした地域生活支援について検討					第1回	コア会議		コア会議		コア会議	第2回	
ころころ	居場所やプログラム内容の検討、充実	プログラム検討		プログラム検討		プログラム検討		プログラム検討		プログラム検討		プログラム検討	
基幹相談支援センター主催セミナー				6月18日(火) コミュニケーションセミナー 「伝える」「伝わる」を体感しよう				権利擁護・虐待防止セミナー		社会資源セミナー			

令和5年度 碧南市地域生活支援拠点 機能評価シートまとめ（令和5年12月）

* 項目評価は「十分」と思われるものを3、「不十分」と思われるものを1として、3段階で評価。

- * 1 項目平均における左側の数値は、3段階評価の平均値。
右側の数値は、3段階評価の回答を1=0、2=50、3=100と置き換えた数値の平均値。
- * 2 機能別評価における左側の数値は、「*1項目平均」の左側の平均値。
右側の数値は、「*1項目平均」の右側の平均値。

機能	番号	項目	*1項目平均		理由	改善点、改善策など	*2機能別評価	
1 相談	1	障害のある方やその家族等からの相談を受け、相談内容に対し、適切な助言、訪問、聞き取りなどを行っている。	2.5	73	○個々のケースに丁寧な対応がされている ○発達支援など必要な相談先が整っている ×担当者による対応の差を感じる	・相談員の確保 ・相談支援事業所に対して一定の人件費の補助 ・事業所が相談を受けた際に、関係機関と情報共有を行う	2.3	63.5
	2	問題が顕在化する前に対応できる取組を行っている。	2.1	54	○把握した情報を共有し、都度対応している ○サービス等利用計画を作成している場合、モニタリングの際に潜在的な課題も話し合い、対応することができている ×問題となる前に対応ができる仕組みがあるのかわからない	・アセスメントやモニタリング時、またリスクの高い事項が発生した際に、関係機関と共有、検討する		
2 緊急時の受け入れ・対応	1	緊急時において24時間365日相談が可能であり、連絡先が明確になっている。	2.3	67	○緊急時の事業所間での連絡先一覧が作成され、明確になっている ×当事者、家族に緊急時連絡先の周知がされていない	・必要とする当事者や家族、または支援者に緊急時連絡先を周知していく	2.2	60.5
	2	緊急時一時保護先としての施設や機関の受入れの確保など、その後のフォロー体制が十分に取れている。	2.1	54	○市と事業所で緊急保護先が確保されている ×事例が少なく、受け入れやその後フォローができているかの情報がない ×どのような流れで一時保護になっていくのか、関連する機関がどこなのか明確ではない	・緊急時の受入れやその後のフォローなどの情報共有ができる場があるといい ・どの事業所でもフォローできるようにマニュアル化され、周知されているといい ・部会で緊急保護案件についての概要を報告する		
3 体験の機会・場	1	宿泊体験を自立生活に向けて利用できる。	1.9	44	○宿泊体験をできる体制が整った ○市が宿泊体験の機会をバックアップしている ×必要な人に十分な周知がされていない	・当事者、家族に分かりやすく周知していく ・事例を積み上げ、検討を重ねていく	2.0	48.7
	2	体験の利用時において、夜間も含めたトラブル等の必要時に訪問・連絡調整のできる体制があり、安心して利用できる。	2.0	48	○トラブル等が発生した際の緊急連絡等、連携できる体制が整備されている ×経験、実績がなく、必要な体制ができていない	・どのようなことが想定されるかのシミュレーションが必要		
	3	買い物、調理、洗濯などの日常生活の体験を自立生活に向けて行うことができる。	2.1	54	○個々の事業所で体験できる機会はある ×必要な支援を、施設の特徴とあわせて選択できる幅が少ない ×買い物・調理・洗濯などを一元的に体験ができる場所がない	・「できない（やったことがない）」から「できる」になるためのサポートが必要 ・各々の事業所で行われる支援を明確にして周知する		

- * 1 項目平均における左側の数値は、3段階評価の平均値。
右側の数値は、3段階評価の回答を1＝0、2＝50、3＝100と置き換えた数値の平均値。
- * 2 機能別評価における左側の数値は、「* 1 項目平均」の左側の平均値。
右側の数値は、「* 1 項目平均」の右側の平均値。

機能	番号	項目	*1項目平均		理由	改善点、改善策など	*2機能別評価	
4 専門的 人材の確 保・養成	1	本人の意思を尊重し、自己決定のために丁寧な説明と理解が得られている。	2.5	73	○自己決定に配慮された対応がされている ×支援者によっては本人よりも保護者の意見に流されてしまうことがある	・意思表出支援や意思形成支援に対する支援者の理解を深める ・利用者にアンケートを行う ・定期的な研修の開催、参加	2.4	69.0
	2	障害者等の重度化・高齢化に対応できる人材を確保・養成するため、専門的な研修等の機会を確保している。	2.3	65	○研修が計画的、継続的に実施されている ○研修参加が増えて意識が高まっている ×重度化・高齢化をテーマにした研修の機会はまだ十分ではない	・高齢分野、障害分野双方共同の研修を行う ・現場の職員が受講しやすい研修形態を検討する		
5 地域の 体制づくり	1	地域自立支援協議会において、地域の課題確認や社会資源の検討などが行われている。	2.5	75	○様々な事例を通して、各事業所が必要なこと、地域資源の活用が話し合われている ○参加メンバーが他機関にわたり、課題確認・検討も様々な視点から行うことができる。 ○各部会ごとに課題の確認や検討が行われている。	・「こんなあるある」を話し合い、他分野の状況を共有し、課題解決に向けた検討を行う ・各事業所の職員に地域課題を意識してもらうように働きかける	2.3	65.3
	2	障害者の権利擁護の視点を大切にしながら、支援できる体制がとれている。	2.5	73	○地域全体に対して障害者の差別解消、虐待防止の権利擁護に対する啓発活動を実施している ×支援者の権利擁護の意識は高まっているが、地域の方は不十分	・資質向上のため、利用者アンケートや研修会を実施する ・地域への啓発活動や当事者を含めた研修会を開催する ・早期相談・解決の重要性を発信する		
	3	教育・医療・就労支援機関等、関係機関と支援関係が確立している。	2.0	48	×高齢・教育・医療分野との連携は不十分 ×病院により、連携の仕方に特徴があり、スムーズな連携が難しい ×関係機関とのつながりがなく、相談先が分からない	・多機関を含めた担当者会議を開催する ・日々の中で顔の見える関係性を構築していく		



令和6年度
基幹相談支援センター主催セミナー



伝える

伝わる



を体感しよう！

話し手：WHJ相談支援センターメビア 浅野将克氏

令和6年6月18日（火） 10：15～11：45

へきなん福祉センターあいくる

1F まちかどホール

申し込みは5月31日（金）までに

0566-46-3701またはsoudanshien@hekinan-shakyo.jpへ

碧南市社会福祉協議会 古川・坪井



障害福祉サービス 事業所説明会

主催：碧南市地域自立支援協議会（事業所部会・就労支援部会）
社会福祉協議会
福祉課

前年度、多くの方に来場いただき、大好評の事業所説明会が今年はさらにパワーアップ！
進路や実習先の選択の参考に、ぜひお越し下さい！

2024年

6/29 土

10:00～12:00

- ・参加費無料
- ・申込不要
- ・事業所の
見学・体験
予約可能

会場・お問い合わせ

会場：へきなん福祉センターあいくる2階 デイルーム
（碧南市山神町8-35）

お問い合わせ：碧南市社会福祉協議会
古川・小島・久村・坪井

☎0566-46-3701

「ひらけトビラ ～主役はあなた～」

クロストーク(10:05～ 約30分)

登壇者

1. 加藤 巧己 氏
(ふれあい作業所・生活介護)
2. 松本 忍 氏
(KTチャレンジ・就労継続支援B型)
3. 高松 有美 氏
(サンフレア・就労継続支援A型)
4. 松永 紗季 氏
(ふれあい工房アルゴ・就労移行支援)



ブース出展事業所

1. 碧南ふれあい作業所 (生活介護)
2. ふれあい福祉園ガイア (生活介護)
3. ふれあいの杜まんなか (生活介護)
4. 木香 (生活介護)
5. ふれあい工房アルゴ (就労継続支援B型、就労移行支援)
6. サンたなお (就労継続支援B型)
7. 就労センターオアシス碧南 (就労継続支援B型)
8. 就労センターオアシス大浜 (就労継続支援B型)
9. レーずん マルシェ (就労継続支援B型)
10. KTチャレンジ (就労継続支援B型)
11. コンパス (就労継続支援B型)
12. リハスワーク碧南 (就労継続支援B型)
13. こうのどり (就労継続支援B型)
14. サンフレア (就労継続支援A型)
15. どリーむ (就労継続支援A型)

今年も相談支援の
ブースがあります！

令和5年度 精神障害者居場所事業「ころころ」実績

回次	日付	プログラム内容	当事者	付添	ボランティア	職員	合計
1	4月6日	ニューススポーツを楽しもう	8人	1人	3人	2人	14人
2	4月13日	折り紙で季節を感じよう	9人	1人	3人	2人	15人
3	4月20日	ころころトーク	10人	2人	3人	2人	17人
4	4月27日	映画を観てのんびりしよう	8人	2人	2人	2人	14人
5	5月11日	折り紙で季節を感じよう	11人	3人	3人	2人	19人
6	5月18日	調理プログラム	9人	2人	2人	2人	15人
7	5月25日	ボッチャを楽しもう	7人	3人	3人	2人	15人
8	6月1日	ジェスチャーゲームで体を動かそう	7人	1人	2人	2人	12人
9	6月8日	折り紙で季節を感じよう	8人	1人	3人	2人	14人
10	6月15日	ころころトーク	7人	1人	2人	2人	12人
11	6月22日	調理プログラム	9人	3人	3人	2人	17人
12	6月29日	卓球バレー	10人	2人	2人	2人	16人
13	7月6日	出前講座 こころの健康づくり	11人	2人	3人	2人	18人
14	7月13日	折り紙で季節を感じよう	7人	2人	3人	2人	14人
15	7月20日	ボッチャを楽しもう	11人	3人	2人	2人	18人
16	7月27日	調理プログラム	10人	2人	3人	2人	17人
17	8月3日	小皿に絵付け体験をしよう	8人	2人	3人	2人	15人
18	8月10日	折り紙で季節を感じよう	8人	2人	3人	2人	15人
19	8月17日	調理プログラム	9人	2人	3人	2人	16人
20	8月24日	防災プログラム・避難訓練	10人	2人	3人	2人	17人
21	8月31日	ニューススポーツ(ペタボード)	11人	3人	3人	2人	19人
22	9月7日	折り紙で季節を感じよう	14人	2人	3人	2人	21人
23	9月14日	ころころトーク	12人	3人	2人	2人	19人
24	9月21日	出前講座 肩こりストレッチ	9人	1人	3人	2人	15人
25	9月28日	調理プログラム	10人	2人	2人	2人	16人
26	10月5日	ボッチャを楽しもう	14人	3人	2人	2人	21人
27	10月12日	折り紙で季節を感じよう	11人	4人	4人	2人	21人
28	10月19日	ヨガで呼吸をふかめよう	9人	3人	3人	2人	17人
29	10月26日	調理プログラム	7人	3人	4人	2人	16人
30	11月2日	ころころトーク	10人	2人	3人	2人	17人
31	11月16日	調理プログラム	8人	3人	4人	2人	17人
32	11月30日	卓球バレーを楽しもう	15人	2人	3人	2人	22人
33	12月7日	外出プログラム(岡崎城)	13人	2人	2人	2人	19人
34	12月14日	調理プログラム	14人	3人	3人	2人	22人
35	12月21日	クリスマス音楽会・お楽しみ会	17人	2人	4人	2人	25人
36	12月28日	折り紙で季節を感じよう	13人	3人	3人	2人	21人
37	1月4日	ころころトーク	11人	2人	3人	2人	18人
38	1月11日	当てっこゲーム・おしるこを食べよう	13人	3人	3人	2人	21人
39	1月18日	ボッチャを楽しもう	8人	1人	2人	2人	13人
40	1月25日	調理プログラム	10人	2人	4人	2人	18人
41	2月1日	折り紙で季節を感じよう	10人	1人	4人	2人	17人
42	2月8日	調理プログラム	12人	3人	2人	2人	19人
43	2月15日	いつまでも元気に健康体操	8人	1人	2人	2人	13人
44	2月22日	避難訓練・R6年度のやりたいことを話し合おう	10人	2人	3人	2人	17人
45	2月29日	卓球バレーを楽しもう	9人	1人	2人	2人	14人
46	3月7日	折り紙で季節を感じよう	9人	1人	3人	2人	15人
47	3月14日	ニューススポーツにチャレンジ	10人	2人	3人	2人	17人
48	3月21日	ころころトーク	9人	2人	3人	2人	16人
49	3月28日	明石公園へお花見に行こう	11人	1人	2人	2人	16人
延べ人数			494人	102人	138人	98人	783人
1回あたり平均(今年度のべ49回)			10.1人	2.1人	2.8人	2.0人	16.0人

令和5年度 精神障害者居場所事業「ころころ」実績

・開催日

毎週木曜日 10:00～15:00

その他、心身障害者福祉センターの開館時間に多目的室を解放

・のべ実施回数

49回

(昨年度 46回)

・のべ参加者数

当事者494人、付添102人、ボランティア138人、職員98人 合計783人)

(昨年度 当事者 480人、付添63人、ボランティア117人、職員61人 合計721人)

・1回あたり平均

当事者10.1人、付添2.1人、ボランティア2.8人、職員2.0人 合計16.0人

(昨年度 当事者 9.8人、付添1.3人、ボランティア2.4人、職員1.2人 合計14.7人)